

上牧町まち・ひと・しごと 創生総合戦略

令和元（2019）年度改訂版

令和 3 年度事業の検証に関する提言書

令和 5 年 3 月

上牧町総合計画等外部検証委員会

目 次

1. はじめに	1 ページ
2. 検証の概要	1 ページ
3. 提言書	3 ページ
基本目標①	5 ページ
<u>若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える</u> (取組内容 1～22)	
基本目標②	29 ページ
<u>上牧町への新しい人の流れをつくる</u> (取組内容 23～30)	
基本目標③	39 ページ
<u>地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる</u> (取組内容 31～39)	
基本目標④	49 ページ
<u>誰もが働きやすい環境をつくる</u> (取組内容 40～43)	

1. はじめに

本町では、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、本町が目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す「上牧町人口ビジョン」及び、町民と行政とが連携して、本町の人口減少への対策に取り組むことを目指し、5年間の目標や施策の基本的方向、具体的な施策等をまとめた「上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」という。）を平成27年度に策定しました。

総合戦略については、令和元年度に計画最終年度の5年目を迎えたことから、本町における最上位計画であり、令和3年度までのまちづくりの方向性を体系的に示した現行総合計画との整合を図り、足並みを揃えて人口減少などの諸問題に取り組むため、令和元年度において、総合戦略の計画期間を2年間延長した「上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和元（2019）年度改訂版）」（以下、「総合戦略（改訂版）」という。）を策定しています。

総合戦略（改訂版）の進行管理にあたっては、まちづくり基本条例の基本原則のひとつである「PDCAサイクル」を十分に機能させるため、町民、議会のほか産官学勤労言で構成された「上牧町総合計画等外部検証委員会」（以下、「外部検証委員会」という。）を設置し、取組内容の評価及び検証を行っており、これまでの成果と課題、社会情勢、町民ニーズ、本町の方向性など、様々な観点から取組内容に関する助言・提案がなされましたので、このほど提言書としてとりまとめました。

2. 検証の概要

（1）評価・検証の対象

総合戦略（改訂版）に掲げる18の施策に位置づけた43の取組内容を評価・検証の対象としています。



(2) 評価主体について

総合戦略（改訂版）の評価主体は、総合戦略（改訂版）に記載されている担当課で自己評価を行い、それをもとに本町幹部職員により構成される「内部検証委員会」で実施内容や評価を精査し、町としての評価を行っています。その後、「外部検証委員会」において実施内容、評価について客観的、専門的見地から様々な観点で検証を行い、最終的な評価としています。

(3) 評価の方法

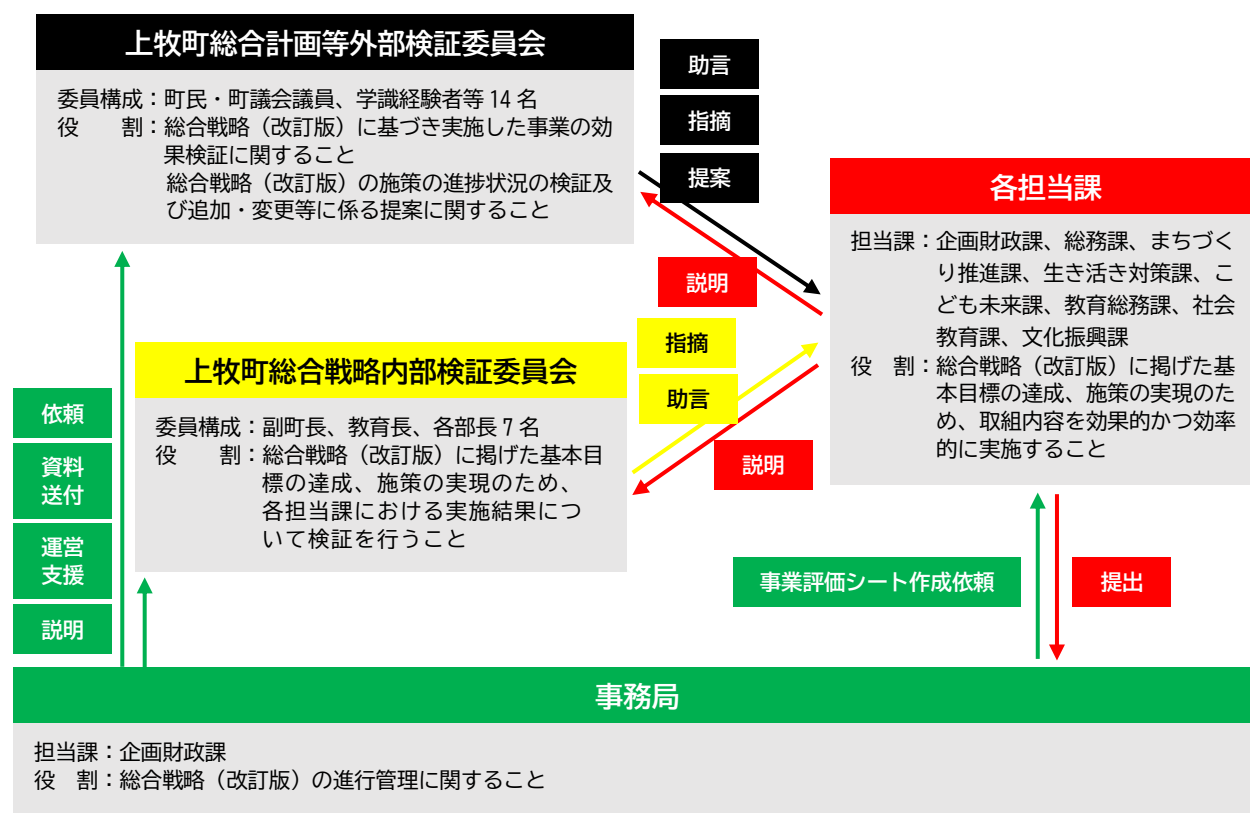
総合戦略（改訂版）では、基本目標の達成に向け、各施策を実現していくための手段として、掲げている取組内容を効果的かつ効率的に実施していくこととしており、それを踏まえ、施策を構成する取組内容ごとに達成度や住民ニーズの方向性、見直しの余地を視点に、各担当課において「事業評価シート」を作成し、その自己評価に基づき内部及び外部検証委員会で評価判定を行っています。

(評価区分)

	A	B	C
達成度	目標よりも大きな成果を得られた	概ね目標の成果が得られた	目標とする成果は得られなかった
ニーズの方向性	増加する傾向にある	現状と変わらない	減少する傾向にある
事業の見直しの余地	見直す余地がありすぐに実施	見直す余地はあるが時間が必要	見直す余地がほとんどない

(4) 検証体制

総合戦略（改訂版）の検証については、以下の体制で実施しています。



3. 提言書

(1) 概要

本書はこれまでの実施内容、検証結果、今後の方針、外部検証委員会での意見について取組内容ごとに取りまとめたものです。

(2) 目的

本提言書は、総合戦略（改訂版）に位置付けられた取組について、「PDCA サイクル」を十分に機能させるために、外部検証委員会における客観的・専門的な視点からの意見等を勘案しながら、より効果的に取組を推進していくことを目的として、作成されたものです。

(3) 活用のポイント

原則としては、総合戦略（改訂版）に位置付けられた取組の推進にあたり、取組内容や今後の方向性における妥当性の確認や見直しの検討に活用していただくものです。外部検証委員会における客観的・専門的な視点からの意見等を参考にすることで、成果指標（KPI）の目標達成に向けたアプローチの方法や取組を推進するための課題に対する解決策等の検討について、広い視野を持って取組を進めていくことができると考えます。

基本目標①

若い世代の結婚・出産・子育て・教育の
希望を叶える

取組内容 1 ICT を活用した教育支援

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：教育総務課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	子どもの学力向上支援		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	ICT 教育関係研修（教職員向け）の実施		
令和 3 年度	ICT 教育関係研修（教職員向け）の実施		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
学力・学習状況調査の ICT に関する質問の回答	—	肯定的回答値が県平均以下	肯定的回答値が県平均以上
独自指標 (令和 3 年度)		目標値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 3 年度)
—		—	—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
教員向け研修開催回数 (年間)	2 回		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 2 回 R04/11/25) ○取組内容が「ICT を活用した教育支援」となっているので、教員ではなく、児童生徒や園児を対象とした取組を記載する必要があると思う。ICT 教育が拡大していることが分かるように、子どもたちが実際にどの程度使用し、どのような効果が出ているかなどを示してほしい。			

取組内容 2

学習支援教室（まきっ子塾）の開催

1. 事業概要（PLAN）		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	子どもの学力向上支援		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	「まきっ子塾」の実施		
令和 3 年度	「まきっ子塾」の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
小学校 1 年生から 3 年生のまきっ子塾に参加している児童の割合	31.1%	35.5%	40%
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
保護者が「まきっ子塾」に子どもが参加してとても良かったまたは、良かったと答えた割合		—	97%
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
「まきっ子塾」参加児童満足度	75%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25）			
○「通わせたいが、迎えが難しい」という保護者の声を聞く。安全面への配慮であることは理解しているが、通いやすくなるような方法を少し検討してほしい。			
○上牧小学校の参加率が低いので、全ての学校の活性化に努めてもらいたい。			
○放課後子どもプランと組み合わせた枠組みで進めることも検討するとよいと思う。			
○学習の楽しさや必要性を伝えられるよう学習内容の工夫をしてほしい。子どもたちが今後 1 人で学習していくことができる力の育成に努めてもらいたい。			

取組内容 3

学校を中心としたコミュニティ網の形成

1. 事業概要（PLAN）		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	コミュニティ・スクール導入に向けた検討会議の実施		
令和３年度	コミュニティ・スクール導入に向けた検討会議の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）導入に向けた検討会議の年間開催数	—	1 回	5 回
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
コミュニティ・スクール制度導入に向けた検討会議の開催数（年間）	3 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25）			
○適正化が決まった時点で、何年以内にこういったことを行うといった具体的な計画を立てておかないと、いつまでも曖昧なままになってしまうと思う。			
○小学校区が母体となって、地域のコミュニティ網が形成されていると思うので、小学校の統廃合とともに、そのコミュニティをどう引き継ぎ発展させていくかが重要になってくると思う。			

取組内容 4 学校支援事業の運営

1. 事業概要（PLAN）		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	学校・地域パートナーシップ事業		
令和３年度	学校・地域パートナーシップ事業		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
学校支援ボランティア年間登録者数	214 人	217 人	220 人
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
学校支援ボランティア登録者数（年間）	250 人		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25） ○意見なし			

取組内容 5 人権教育の推進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
2. 実施結果（D0）			
令和2年度	ヒューマンライツセミナー、指導者研修会の実施		
令和3年度	ヒューマンライツセミナー、指導者研修会の実施		
KPI	基準値 （平成30年度）	実績値 （令和3年度）	最終目標値 （令和3年度）
ヒューマンライツセミナー年間参加者数（延べ人数）	73人	141人	100人
独自指標（令和3年度）	目標値 （令和3年度）		実績値 （令和3年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和2年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和3年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和4年度）		
ヒューマンライツセミナー新規受講者数（累計）	10人		
独自指標（令和4年度）	目標値（令和4年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第2回 R04/11/25）			
○心無い問合せがあるということであれば、声を上げて、多くの方に考える機会をもってもらいたいと思う。様々な機関と協力して、積極的に働きかけを行ってほしい。			

取組内容 6 子どもの読書活動の推進

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：文化振興課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	小学校児童への図書館紹介 (リモート)、図書の団体貸出の周知		
令和 3 年度	小学校児童への図書館紹介 (ビデオ)、図書の団体貸出の周知		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
図書の団体貸出を行う学校数 (年間)	1 校	2 校	3 校
独自指標 (令和 3 年度)	目標値 (令和 3 年度)		実績値 (令和 3 年度)
—	—		—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続 (名称変更)		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
図書の団体貸出を行う学校数 (年間)	3 校		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 2 回 R04/11/25) ○本シートから子どもたちの読書量がどれだけ増えたかを読み取ることができるよう工夫する必要があると思う。他市町村では、1 ページを 1 ポイントに換算し、ポイントを貯めた子どもに表彰状を渡すような取組事例もある。ゲーム感覚で楽しんで取り組むことができ、成果も図りやすい。			

取組内容 7 情報交換拠点の整備

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	地域ぐるみの子育て支援		
2. 実施結果（D0）			
令和 2 年度	つどいの広場・おひさま広場・サロンぽけっとの開催		
令和 3 年度	つどいの広場・おひさま広場・サロンぽけっとの開催		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
つどいの広場・おひさま広場の年間利用者数（延べ人数）	4,149 人	3,703 人	3,980 人
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
情報交換拠点（つどいの広場・おひさま広場）の利用者満足度	80%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13） ○意見なし			

取組内容 8

地域における保育環境の改善事業

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：こども未来課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	地域ぐるみの子育て支援		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	預かり保育の実施		
令和 3 年度	預かり保育の実施		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
預かり保育の年間利用者数 (延べ人数)	2,537 人	888 人	1,840 人
独自指標 (令和 3 年度)		目標値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 3 年度)
—		—	—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	B 現状と変わらない	C 見直す余地がほとんどない
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続 (名称変更)		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
預かり保育の延べ利用者数 (年間)	1,000 人		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 3 回 R05/1/13)			
○保護者のニーズと現場の対応能力をその都度確認し、必要があれば見直す形で続けてほしい。			

取組内容 9

英語教育の充実

1. 事業概要（PLAN）		担当課：教育総務課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	公立幼稚園での英会話教室の実施		
令和３年度	公立幼稚園での英会話教室の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
英会話教室の年間開催数	35 回	35 回	35 回
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	統合		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
幼稚園児と小学校児童との交流回数（年間）	3 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25） ○趣旨からみると、公立幼稚園に限定するような内容ではなく、町内すべての園児にあてはまる内容だと思う。公立幼稚園に通っている園児は、全体の割合からみると少ないので、気になるところである。			

取組内容 10

体育教育の充実

1. 事業概要（PLAN）		担当課：教育総務課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	公立幼稚園での体育教室の実施		
令和３年度	公立幼稚園での体育教室の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
体育教室の年間開催数	12 回	11 回	12 回
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	統合		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
幼稚園児と小学校児童との交流回数（年間）	3 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25） ○趣旨からみると、公立幼稚園に限定するような内容ではなく、町内すべての園児にあてはまる内容だと思う。公立幼稚園に通っている園児は、全体の割合からみると少ないので、気になるところである。 （「9. 英語教育の充実」と同様）			

取組内容 11 乳幼児教室の充実

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実		
2. 実施結果（D0）			
令和 2 年度	第 1 保育所における情操教育の実施（英語知育教育、和太鼓、ミュージックケア等）		
令和 3 年度	第 1 保育所における情操教育の実施（英語知育教育、和太鼓、ミュージックケア等）		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	目標値 （令和 3 年度）
乳幼児教室年間開催数	20 回	36 回	36 回
独自指標（令和 3 年度）		実績値 （令和 3 年度）	目標値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
乳幼児教室開催数（年間）	36 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13） ○意見なし			

取組内容 12 通級指導教室（ペガサス教室）の充実

1. 事業概要（PLAN）		担当課：教育総務課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	多様な学びの場における支援		
2. 実施結果（D0）			
令和 2 年度	小学校ペガサス教室、中学校ペガサス教室、訪問通級指導の実施		
令和 3 年度	小学校ペガサス教室、中学校ペガサス教室、訪問通級指導の実施		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
通級指導教員数	2 人	5 人	4 人
独自指標（令和 3 年度）		目標値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 3 年度)
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
通級指導教員数	5 人		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25） ○意見なし。			

取組内容 13

ほほ笑み教室の開催

1. 事業概要（PLAN）		担当課：生き活き対策課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	多様な学びの場における支援		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	療育支援教室（ほほ笑み教室）の実施		
令和３年度	療育支援教室（ほほ笑み教室）の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
教室利用者の満足度（5 段階評価）	—	4. 6	4. 8
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	B 現状と変わらない	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	B 現状と変わらない	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
ほほ笑み教室利用者満足度（5 段階評価）	4. 8		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13） ○意見なし			

※KPIの「教室利用者の満足度」については、当初「4段階評価」で目標値（R03）を「3/4以上」と設定していましたが、実際にアンケート調査を実施するにあたって、「5段階評価」に変更したため、5段階評価の数値を記載しています。

取組内容 14 様々な専門講座の開催

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	青少年の健全な育成		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	子ども体験学習の実施 (科学実験・理科工作、ロボットカー、茶道体験、日光写真)		
令和 3 年度	子ども体験学習の実施 (科学実験・理科工作、茶道体験、木工工作)		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
専門講座の年間開催数	4 回	4 回	6 回
独自指標 (令和 3 年度)		目標値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 3 年度)
—		—	—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
専門講座開催回数 (年間)	6 回		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 2 回 R04/11/25)			
○意見なし			

取組内容 15

スポーツ教室や野外活動教室の開催

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	青少年の健全な育成		
2. 実施結果 (DO)			
令和2年度	ジュニアリーダー研修、子どもウォーキングの実施（中止）		
令和3年度	ジュニアリーダー研修、子どもウォーキングの実施		
KPI	基準値 (平成30年度)	実績値 (令和3年度)	最終目標値 (令和3年度)
野外での活動教室年間開催数	2回	3回	3回
独自指標 (令和3年度)	目標値 (令和3年度)		実績値 (令和3年度)
—	—		—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和2年度	C 目標とする成果は得られなかった	B 現状と変わらない	B 見直す余地があるが時間が必要
令和3年度	B 概ね目標の成果が得られた	B 現状と変わらない	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値 (令和4年度)		
ジュニアリーダー研修新規登録者数 (年間)	10人		
独自指標 (令和4年度)	目標値 (令和4年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第2回 R04/11/25) ○意見なし			

取組内容 16 キャリア教育の実施

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：教育総務課	
基本的方向	地域による教育・子育て環境の充実		
施策	青少年の健全な育成		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	職業人を講師とした講演会の開催		
令和 3 年度	職業人を講師とした講演会の開催		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
県内企業や地域との年間交流活動回数	2 回	2 回	3 回
独自指標 (令和 3 年度)	目標値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 3 年度)	
—	—	—	
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続 (名称変更)		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
県内企業や地域との交流活動回数 (年間)	2 回		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 2 回 R04/11/25)			
○意見なし			

取組内容 17 出会い・結婚応援事業の実施

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課	
基本的方向	結婚・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
施策	結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援		
2. 実施結果（DO）			
令和2年度	マリッジサポーターの育成・新規募集、結婚相談会		
令和3年度	マリッジサポーターの育成・新規募集、結婚相談会		
KPI	基準値 （平成30年度）	実績値 （令和3年度）	最終目標値 （令和3年度）
出会い・結婚応援事業による年間成婚数	—	1組	3組
結婚相談年間新規登録者数	17人	19人	20人
独自指標（令和3年度）		目標値 （令和3年度）	実績値 （令和3年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和2年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和3年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直して継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和4年度）		
出会い結婚応援事業による成婚者数（累計）	8組		
独自指標（令和4年度）	目標値（令和4年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第3回 R05/1/13） ○サポーターについては、各団体や組織への呼びかけを行うことで、広がりをもたせることができると思う。			

取組内容 18

プレパパママ教室の開催

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課	
基本的方向	結婚・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
施策	結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	プレパパママ教室の開催		
令和３年度	プレパパママ教室の開催		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
パパの教室参加割合	—	17.4%	22%
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
プレパパママ教室の満足度（5 段階評価）		4.8	4.5 以上
プレパパママ教室参加者延べ人数		72 人	80 人
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	A 目標より大きな成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
プレパパママ教室参加割合	30%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
プレパパママ教室の満足度（5 段階評価）	4.5 以上		
プレパパママ教室の参加者延べ人数	80 名		
母子健康手帳アプリ登録者数	105 名		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13） ○意見なし			

取組内容 19

不妊・不育症治療助成制度の利用促進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：生き活き対策課	
基本的方向	結婚・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
施策	結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	不妊・不育症治療助成制度に関する周知・啓発（広報・HPでの案内、チラシ等の設置）		
令和３年度	不妊・不育症治療助成制度に関する周知・啓発（広報・HPでの案内、チラシ等の設置）		
KPI	基準値 （平成30年度）	実績値 （令和３年度）	最終目標値 （令和３年度）
事業認知度	—	50.4%	55%
独自指標（令和３年度）		目標値 （令和３年度）	実績値 （令和３年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和４年度）		
不妊・不育症治療助成事業認知度（よく知っている、名前だけ知っている人の割合）	60%		
独自指標（令和４年度）	目標値（令和４年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第３回 R05/1/13）			
○町ホームページからの認知が多いので、ホームページの内容の充実に努めてもらいたい。			

取組内容 20

乳児・幼児健診受診の促進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：生き活き対策課	
基本的方向	結婚・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
施策	子育ての希望を叶えるための支援		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	乳児・幼児健診の実施		
令和 3 年度	乳児・幼児健診の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
乳児健診受診率	96.5%	92.9%	100%
幼児健診受診率	90%	87.9%	98%
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	B 現状と変わらない	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
乳児健診受診率	95%		
幼児健診受診率	92%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13） ○特になし			

取組内容 21

子育て世代への訪問型個別支援の拡充

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課	
基本的方向	結婚・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
施策	子育ての希望を叶えるための支援		
2. 実施結果（DO）			
令和2年度	訪問型個別支援の実施（家庭訪問、妊娠届提出時のカウンセリング、訪問時の記念品等の贈呈）		
令和3年度	訪問型個別支援の実施（家庭訪問、妊娠届提出時のカウンセリング、訪問時の記念品等の贈呈）		
KPI	基準値 （平成30年度）	実績値 （令和3年度）	最終目標値 （令和3年度）
赤ちゃん訪問実施率	99%	94.3%	100%
独自指標（令和3年度）		目標値 （令和3年度）	実績値 （令和3年度）
訪問者の対応に対する満足度（5段階評価）		4.5	4.9
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和2年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和3年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和4年度）		
赤ちゃん訪問実施率	100%		
独自指標（令和4年度）	目標値（令和4年度）		
赤ちゃん訪問の内容に対する満足度（5段階評価）	5.0		
外部検証委員の意見			
（第3回 R05/1/13） ○訪問できなかった方が孤立することのないように努めてもらいたい。電話等できめ細やかなサポートを行っていること等、訪問できなかった方への対応についても、できる範囲で記載するとよいと思う。			

取組内容 22

子育て支援セミナーの開催

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：こども未来課	
基本的方向	結婚・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
施策	子育ての希望を叶えるための支援		
2. 実施結果 (DO)			
令和2年度	子育て支援セミナーの開催 (中止)		
令和3年度	子育て支援セミナーの開催 (中止)		
KPI	基準値 (平成30年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和3年度)
セミナー年間参加者数 (延べ人数)	—	—	40 人
独自指標 (令和3年度)		実績値 (令和3年度)	目標値 (令和3年度)
—		—	—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和2年度	C 目標とする成果が得られなかった	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和3年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続 (名称変更)		
KPI		目標値 (令和4年度)	
子育て支援セミナー参加延べ人数 (年間)		40 人	
独自指標 (令和4年度)		目標値 (令和4年度)	
—		—	
外部検証委員の意見			
(第3回 R05/1/13) ○意見なし			

基本目標②

上牧町への新しい人の流れをつくる

取組内容 23

空き家利活用の推進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：まちづくり推進課	
基本的方向	既存ストックの利活用促進		
施策	空き家活用プロジェクト		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	空き家セミナー・相談会の開催		
令和３年度	空き家セミナー・相談会の開催、空き家・空き地バンク登録促進		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
空き家・空き地バンク登録件数（累計）	—	4 件	15 件
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	C 目標とする成果が得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
空き家・空き地バンク登録件数（累計）	10 件		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—		—	
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25）			
○管理放棄地が増えているので、空き地にも目を向けてほしい。現在空き地となっている場所を調査し、きちんと把握しておく必要があると思う。			
○空き家・空き地バンク登録後の流れや役場からどのような手助けがあるかなどを図式化して、誰もが簡単に分かるよう示してもらいたい。			
○空き家・空き地バンクだけで空き家の利活用を進めることは難しいと思う。空き家コンシェルジュに相談するなどして、空き家バンク以外の方法も検討しながら、広く進めていくのがよいと思う。			

取組内容 24

UR 住宅の活用及び入居促進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	既存ストックの利活用促進		
施策	UR 住宅の活用による移住・定住促進		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	UR 都市機構との勉強会の実施		
令和 3 年度	UR 都市機構との勉強会の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
UR 住宅における年間転入者数	79 人	77 人	110 人
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
UR 都市機構等関係者とのまちづくりに関する意見交換回数（年間）	3 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21）			
○実現できる部分を模索し、要望していくことが大切だと思う。さまざまな角度から要望の方向性を検討する必要がある。			
○年間転入者数のグラフに増減がみられるので、しっかりと分析し、実態把握に努めてもらいたい。			

取組内容 25

上牧町交通網対策検討会の開催

1. 事業概要（PLAN）		担当課：まちづくり推進課	
基本的方向	若年層の UIJ ターン促進と関心・認知度の向上		
施策	公共交通の利便性向上		
2. 実施結果（D0）			
令和 2 年度	上牧町交通網対策検討会の開催（未実施）、バス停（民間バス）へのベンチの設置		
令和 3 年度	未実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
上牧町交通網対策検討会の年間開催数	—	—	2 回
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	C 目標とする成果が得られなかった	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
上牧町地域公共交通会議開催数（年間）	—		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
上牧町交通網対策検討会（内部検討会）	1 回		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25）			
○奈良交通バスの連携がうまく図れていないなどの意見があるので、検討会開催の必要はあると思う。住民のニーズも高いので、早急に進めてもらいたい。			
○本町にとって交通問題をどのようにするかは、最大の課題である。ここを解決しなければ人口減少の食い止めや若者の呼び込みは難しいと思うので、公共交通課題への対応に力を入れてもらいたい。			

取組内容 26 コミュニティバスの利用促進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：総務課	
基本的方向	若年層の UIJ ターン促進と関心・認知度の向上		
施策	公共交通の利便性向上		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	コミュニティバスの運行（3 台体制）		
令和 3 年度	コミュニティバスの運行（3 台体制）		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
コミュニティバスの年間利用者数（延べ人数）	50,000 人	54,048 人	52,000 人
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
コミュニティバス延べ利用者数（年間）	55,000 人		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13）			
○多くの住民の方から必要な時間帯に運行していないという声を聞く。4 便が運休していることへの不便さを感じている方が多いので、住民の声を反映した運行時間の見直しをお願いしたい。			
○交通弱者を助けるという意味ではよいが、駅のない本町において、利便性の向上は大きな目的である。現状、若者の利用がみられず、町内を細々と走っているに留まり、利便性の向上にはつながっていない。民間の路線バスの運行を圧迫しないような形で、志都美駅や畠田駅へバスの乗り入れを行い、通勤通学でも利用できるよう利用方法の拡大を検討する必要があると思う。			
○公共交通の利便性の向上は、若い方が移り住むことになった時に、とても重要な問題になってくると思うので、至急検討してもらいたい。			

取組内容 27

観光プログラムの企画・周知・運営

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：まちづくり推進課	
基本的方向	若年層の UIJ ターン促進と関心・認知度の向上		
施策	関係人口・交流人口の創出		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	未実施		
令和 3 年度	ウォーキングイベントの実施		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
まちあるきツアー年間開催数	—	—	1 回
独自指標 (令和 3 年度)		目標値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 3 年度)
—		—	—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	—	—	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
観光イベントの実施・参加回数 (年間)	1 回		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 2 回 R04/11/25)			
○意見なし			

取組内容 28

イベント等におけるふるさと回帰・移住促進 PR 活動の実施

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	若年層の UIJ ターン促進と関心・認知度の向上		
施策	関係人口・交流人口の創出		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	ペガサスフェスタ（中止）、すむ・奈良・ほっかつ！事業の実施		
令和 3 年度	ペガサスフェスタ、すむ・奈良・ほっかつ！事業の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
プロモーション活動の認知度	46.5%	38.2%	50%
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
プロモーション活動・媒体の認知度	50%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21）			
○ターゲットとしたい層や地域を考慮して、今後も進めていってほしい。			

取組内容 29

大学や企業との連携によるブランディングの推進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	若年層の UII ターン促進と関心・認知度の向上		
施策	関係人口・交流人口の創出		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	地方創生関係交付金活用の検討、「事業者紹介特設サイト」の開設		
令和 3 年度	ふるさと納税制度活用の検討、「事業者紹介特設サイト」の利用促進		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
町ホームページ年間アクセス数	145,276 件	461,429 件	160,000 件
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
事業者紹介特設サイト掲載事業者数		40 事業者	28 事業者
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
ホームページへのアクセス数（年間）	450,000 件		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21） ○意見なし			

取組内容 30

移住支援金事業

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	若年層の UIJ ターン促進と関心・認知度の向上		
施策	関係人口・交流人口の創出		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	移住支援金事業の実施、HP における専用ページの作成、チラシの設置		
令和 3 年度	移住支援金事業の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
移住支援金申請件数（累計）	—	—	1 件
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	C 目標とする成果が得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
移住支援金申請件数（年間）	1 件		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21）			
○県の取組を掲載しているだけでは、町の KPI として不十分に感じる。			
○ふるさと納税を進めていく中で、町の知名度を上げる必要が出てくる。アンテナショップ等を活用し、町の名前を売るイメージで力を入れていくのがよいと思う。			

基本目標③

地域がつながり、魅力ある安全・安心な
まちをつくる

取組内容 31

公共施設広域連携検討会の開催

1. 事業概要（PLAN）		担当課：総務課	
基本的方向	地域資源を活用した魅力創出		
施策	公共施設の相互利用		
2. 実施結果（D0）			
令和 2 年度	中和・西和広域連携検討会、各施設の利用アンケート調査の実施		
令和 3 年度	中和・西和広域連携検討会、各施設の利用アンケート調査の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
公共施設広域連携検討会の年間開催数	—	4 回	3 回
独自指標	目標値 （令和 3 年度）		実績値 （令和 3 年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
公共施設の満足度	—		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/01/13） ○意見なし。			

取組内容 32 史跡上牧久渡古墳群を中心とした文化財の保存及び整備の推進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：社会教育課	
基本的方向	地域資源を活用した魅力創出		
施策	地域資源の整備		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	史跡上牧久渡古墳群整備（年次計画見直し）、歴史ガイドボランティアの養成、文化財紹介動画の配信、文化財の小学校への貸出し		
令和３年度	史跡上牧久渡古墳群整備、歴史ガイドボランティアの養成、歴史を学ぶ講座の実施、郷土学習のための絵本制作		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
歴史ガイドボランティアの養成人数（目標年度終了時点）	—	17 人	30 人
独自指標	目標値 （令和 3 年度）		実績値 （令和 3 年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
史跡上牧久渡古墳群の整備	60%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25） ○歴史ガイドボランティア養成については、認定制度を設けて認定証を発行するなど、参加者にメリットがあるような工夫をするとさらによいと思う。			

取組内容 33

滝川を活用したにぎわい創出事業

1. 事業概要（PLAN）		担当課：まちづくり推進課	
基本的方向	地域資源を活用した魅力創出		
施策	地域資源の整備		
2. 実施結果（D0）			
令和２年度	滝川遊歩道、ポケットパーク、親水護岸の整備		
令和３年度	滝川遊歩道整備、葛城台地区公園整備		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
整備状況進捗率	—	89%	50%
独自指標	目標値 （令和 3 年度）		実績値 （令和 3 年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
かんまき笹ゆり回廊整備状況進捗率	95%		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 2 回 R04/11/25）			
○意見なし			

取組内容 34

町内の優れた技術・能力を有する人材の発掘及び活用の促進

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	地域住民との協働によるまちづくりの推進		
施策	地域活動の支援・促進		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	人材登録制度「上牧町まちづくり人財バンク」に関する情報発信		
令和３年度	人材登録制度「上牧町まちづくり人財バンク」に関する情報発信		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
人材バンク登録者数（目標年度終了時点）	29 人	30 人	40 人
人材バンク登録者年間活用件数	9 人	6 人	20 人
独自指標	目標値 （令和 3 年度）		実績値 （令和 3 年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	C 目標とする成果が得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
上牧町まちづくり人財バンクの登録者数	35 人		
上牧町まちづくり人財バンク登録者の活用人数（年間）	10 人		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21） ○町立小学校において外国人講師を招いて授業が行われたという新聞記事を目にした。そういった方にも積極的に登録してもらおうとよいと思う。			

取組内容 35

地域活動団体の設立及び活動支援

1. 事業概要（PLAN）		担当課：秘書人事課	
基本的方向	地域住民との協働によるまちづくりの推進		
施策	地域活動の支援・促進		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	自治会未設立地区に対する自治会立ち上げに向けた調整		
令和 3 年度	自治会未設立地区に対する自治会立ち上げに向けた調整、まちづくり協議会の設立に向けた説明会の実施（中止）		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
新規地域活動団体年間設立数	4 団体	—	9 団体
独自指標		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があり時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
新規地域活動団体年間設立数（累計）	4 団体		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21）			
○新たな自治会を設立することだけでなく、既存の自治会へ入ることも選択肢の 1 つとして考えるとよいと思う。			
○マンションへ転入してきた方は、自治会意識が低い傾向にある。新住民と旧住民の交流等を含め、ゆるやかで大きな組織を目指して連携していくのがよいと思う。			

取組内容 36

上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業

1. 事業概要 (PLAN)		担当課：企画財政課	
基本的方向	地域住民との協働によるまちづくりの推進		
施策	地域活動の支援・促進		
2. 実施結果 (DO)			
令和 2 年度	上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業の実施、運用改善 (要綱改正)		
令和 3 年度	上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業の実施、運用改善 (要綱改正)		
KPI	基準値 (平成 30 年度)	実績値 (令和 3 年度)	最終目標値 (令和 3 年度)
年間申請団体数	5 団体	5 団体	5 団体
独自指標	目標値 (令和 3 年度)		実績値 (令和 3 年度)
—	—		—
3. 事業の分析 (CHECK)			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性 (ACTION)			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続 (名称変更)		
KPI	目標値 (令和 4 年度)		
上牧町協働のまちづくり公募型補助金申請団体数 (年間)	5 件		
独自指標 (令和 4 年度)	目標値 (令和 4 年度)		
—	—		
外部検証委員の意見			
(第 1 回 R04/10/21) ○どのような事業に取り組んでいるか広報し、参加者を増やしていけるような取組があるとよいと思う。 ○目的が異なってしまうかもしれないが、自治会も活用できるよう応募要件を広げることも検討するとよいと思う。			

取組内容 37

防災訓練の実施支援及び近隣自治体との広域連携

1. 事業概要（PLAN）		担当課：総務課	
基本的方向	地域住民との協働によるまちづくりの推進		
施策	防災・防犯活動の支援・促進		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	「新型コロナウイルス感染防止対策に配慮した避難所開設訓練」の実施（町職員対象）		
令和 3 年度	「新型コロナウイルス感染症に配慮した避難所開設訓練」の実施支援		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	目標値 （令和 3 年度）
地域防災訓練の年間支援回数	—	1 回	3 回
広域防災訓練開催に向けた検討会議の年間開催数	—	—	1 回
独自指標	実績値 （令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
地域防災訓練の支援回数（年間）	3 回		
広域防災訓練開催に向けた検討会議の開催数（年間）	1 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13）			
○他の行事を新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止することは理解できるが、災害は待ってくれないので、コロナ禍に対応した防災訓練を実施すべきだと思う。コロナ禍でも防災ができることを示してもらいたい。			
○被害状況によっては、近隣市町村の避難所を利用することも考えられる。その際に、利用できないといったことが起こらないよう、同じ地域に住む者として助け合える体制作りをしておくことが大切だと思う。			
○コロナ禍において、住民が非常に敏感になっていることを感じている。役場としても、この時期に活動することは非常に頭が痛い問題だと思う。			

取組内容 38

子ども防災意識の向上及び防災物資の備蓄

1. 事業概要（PLAN）		担当課：総務課	
基本的方向	地域住民との協働によるまちづくりの推進		
施策	防災・防犯活動の支援・促進		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	乳幼児の備蓄品の整備、シェイクアウト訓練の実施		
令和３年度	乳幼児の備蓄品の整備、シェイクアウト訓練の実施、乳幼児救急教室の実施（中止）		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
子ども防災意識の向上教室の年間開催数	1 回	—	1 回
子ども用災害物資の備蓄品数	19 種類	20 種類	22 種類
独自指標		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	C 目標とする成果は得られなかった	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
子どもの防災意識の向上教室の開催数（年間）	1 回		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13）			
○タイトルが「子ども防災意識の向上及び防災物資の備蓄」となっているが、正しくは「子どもの防災意識の向上及び防災物資の備蓄」だと思う。「の」が抜けていることで、文脈に違和感がある。			

取組内容 39 防犯活動の支援

1. 事業概要（PLAN）		担当課：総務課	
基本的方向	地域住民との協働によるまちづくりの推進		
施策	防災・防犯活動の支援・促進		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	防犯カメラ関係機器整備、自転車用ヘルメット購入費補助（高齢者対象）、防犯電話購入費補助の実施		
令和 3 年度	防犯カメラ関係機器整備、自転車用ヘルメット購入費補助（高齢者対象）、防犯電話購入費補助の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	目標値 （令和 3 年度）
防犯カメラ設置台数（目標年度終了時点）	12 台	30 台	27 台
独自指標	実績値 （令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）
—	—		—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	見直しして継続		
移行状況	継続		
KPI	目標値（令和 4 年度）		
防犯カメラの設置台数	36 台		
独自指標（令和 4 年度）	目標値（令和 4 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13） ○中学校の統合が進められ、通学路が大きく変更になれば、さらに防犯の重要性が高まってくると 思う。それらを考慮すると、この台数では少なく感じる。交差点での事故等にも対応できるよう 力を入れてもらいたい。			

基本目標④

誰もが働きやすい環境をつくる

取組内容 40

ハローワーク等と連携した就職支援

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援		
施策	ネットワークを活用した就職支援		
2. 実施結果（DO）			
令和2年度	ハローワーク求人情報の提供（閲覧専用端末の運用）、マザーズセミナーの開催		
令和3年度	マザーズセミナーの開催、ハローワーク求人情報の提供（閲覧専用端末の運用）		
KPI	基準値 （平成30年度）	実績値 （令和3年度）	最終目標値 （令和3年度）
就職情報提供端末年間利用者数（延べ人数）	—	—	20人
就職準備セミナー等への年間参加者数（延べ人数）	—	8人	25人
独自指標（令和3年度）		目標値 （令和3年度）	実績値 （令和3年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和2年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和3年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和3年度）		
就職準備セミナー等への参加者数（年間）	20人		
マッチングイベント等参加事業所数(年間)	1事業所		
独自指標（令和3年度）	目標値（令和3年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第1回 R04/10/21）			
○内容としてはよいが、KPI「マッチングイベント等参加事業者数（年間）」の目標値「1事業者」は少なく感じる。今後もう少し増やして欲しい。			

取組内容 41

子育てと就労の両立の支援

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課	
基本的方向	子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援		
施策	子育てしながら安心して働ける環境の整備		
2. 実施結果（DO）			
令和 2 年度	延長保育事業、放課後児童健全育成事業（学童保育）の実施		
令和 3 年度	延長保育事業、放課後児童健全育成事業（学童保育）の実施		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
延長保育年間実利用者数	210 人	184 人	220 人
放課後児童クラブ月間受入人数（年平均値）	116 人	133 人	140 人
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	統合		
KPI	目標値（令和 3 年度）		
—	—		
独自指標（令和 3 年度）	目標値（令和 3 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 3 回 R05/1/13）			
○延長保育については、絶えず保護者のニーズを確認しながら、進めてほしい。			
○学童保育については、夏休みの利用が多いということなので、夏休みの保育の充実に努めてもらいたい。			

取組内容 42

病児病後児保育機能の強化と保護者負担の軽減

1. 事業概要（PLAN）		担当課：こども未来課		
基本的方向	子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援			
施策	子育てしながら安心して働ける環境の整備			
2. 実施結果（DO）				
令和 2 年度	病児・病後児保育事業の実施、アンケート調査の実施			
令和 3 年度	病児・病後児保育事業の実施			
KPI		基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
病児病後児保育施設登録者数（目標年度終了時点）		36 人	84 人	120 人
独自指標（令和 3 年度）			目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—			—	—
3. 事業の分析（CHECK）				
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地	
令和 2 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施	
令和 3 年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施	
4. 今後の方向性（ACTION）				
施策展開	見直しして継続			
移行状況	統合			
KPI			目標値（令和 3 年度）	
病児・病後児保育施設登録者数			120 人	
独自指標（令和 3 年度）			目標値（令和 3 年度）	
—			—	
外部検証委員の意見				
（第 3 回 R05/1/13）				
○まずは制度をしっかりと知っていただいたうえで、見えないニーズを工夫してつかんでいけるよう努めてもらいたい。				

取組内容 43

子育てママ就業支援事業

1. 事業概要（PLAN）		担当課：企画財政課	
基本的方向	子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援		
施策	子育てしながら安心して働ける環境の整備		
2. 実施結果（DO）			
令和２年度	子育てママ就業支援事業の実施（拠点運営）		
令和３年度	子育てママ就業支援事業の実施（拠点運営）		
KPI	基準値 （平成 30 年度）	実績値 （令和 3 年度）	最終目標値 （令和 3 年度）
子育てママ就業支援施設での年間雇用者数（延べ人数）	18 人	45 人	50 人
子育てママ就業支援施設稼働率	46.5%	83.6%	60%
独自指標（令和 3 年度）		目標値 （令和 3 年度）	実績値 （令和 3 年度）
—		—	—
3. 事業の分析（CHECK）			
評価	達成度	ニーズの方向性	事業見直しの余地
令和２年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	B 見直す余地があるが時間が必要
令和３年度	B 概ね目標の成果が得られた	A 増加する傾向にある	A 見直す余地がありすぐに実施
4. 今後の方向性（ACTION）			
施策展開	現状のまま継続		
移行状況	継続（名称変更）		
KPI	目標値（令和 3 年度）		
子育てママ就業支援施設での延べ雇用者数（年間）	50 人		
子育てママ就業支援施設稼働率（年間）	60%		
独自指標（令和 3 年度）	目標値（令和 3 年度）		
—	—		
外部検証委員の意見			
（第 1 回 R04/10/21）			
○意見なし			

